

市内景気動向調査結果

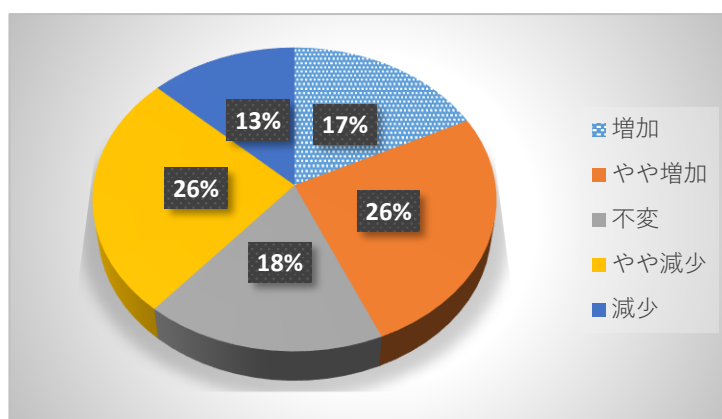
この調査は、第1四半期（本年4月から6月）と前年の同期間（3ヶ月）を比較し当商工会員より回答いただいたものです。

回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
85	23	11	7	20	16	8

※その他は、回答数が少なかった不動産業、金融保険業、飲食業、組合

1. 売上高はどう変化したか。

増加	15
やや増加	22
不変	15
やや減少	22
減少	11
合計	85

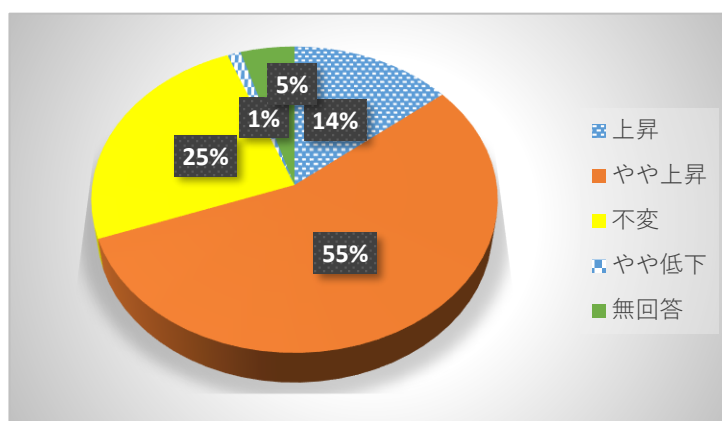


【コメント】

- 増加・やや増加が37件、やや減少・減少は33件であった。
- 増加・やや増加の中で、製造業が回答数11件中9件で特に好調であった。
- サービス業でも、増加・やや増加が半数あった。
- 卸小売業の20件中、半数が減少・やや減少で、業種全体でも減少が多かった。
- 建設業では回答数23件のうち、減少・やや減少が13件で業種全体で一番悪い結果となった。

2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	12
やや上昇	47
不変	21
やや低下	1
低下	0
無回答	4
合計	85

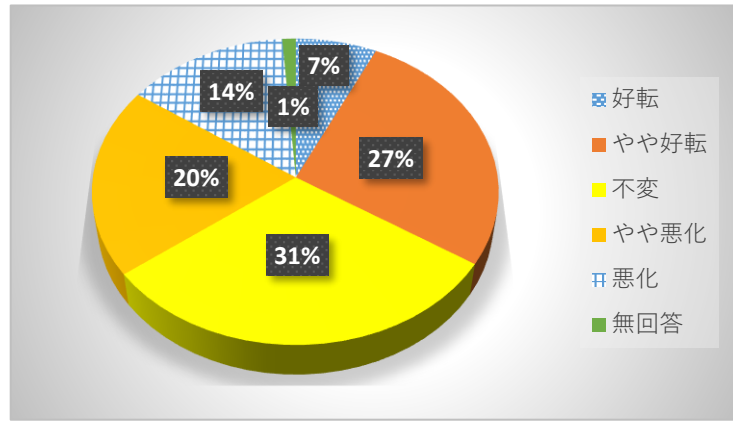


【コメント】

- 仕入単価の上昇については、上昇・やや上昇が全体の約70%、不変が約25%
- 上昇・やや上昇は、卸小売業では約80%、製造業では約73%、建設業では約70%であった。

3. 採算について

好転	6
やや好転	23
不変	26
やや悪化	17
悪化	12
無回答	1
合計	85

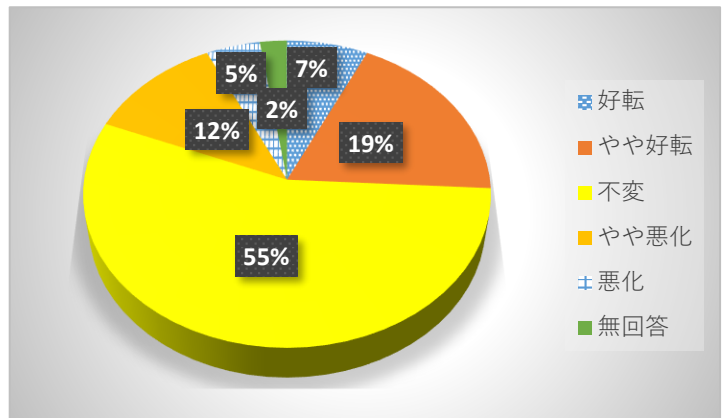


【コメント】

- 好転・やや好転が29件、悪化・やや悪化も29件であった。
- 悪化は、卸小売業で多く7件であった。
- 建設業では、好転・やや好転が6件、悪化・やや悪化が8件で悪化が上回った。売上高の減少、仕入単価の上昇が要因となった。

4. 資金繰りについて

好転	6
やや好転	16
不変	47
やや悪化	10
悪化	4
無回答	2
合計	85

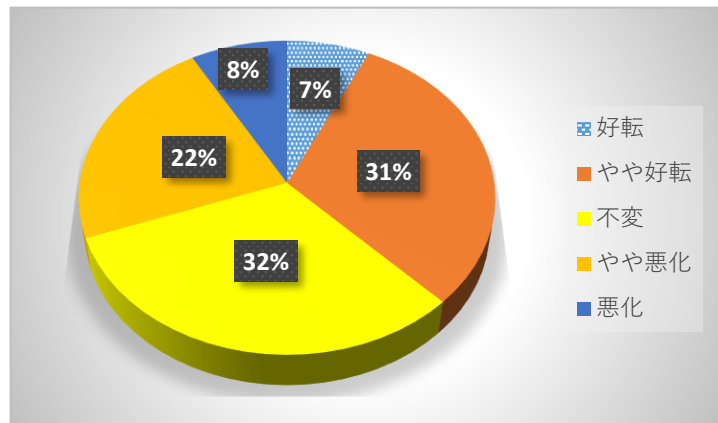


【コメント】

- 好転・やや好転のうち、売上高の増加、採算が好転した建設業、製造業で22件中11件と多かった。
- 仕入単価の上昇では全体の約70%、採算の悪化では全体の約34%となっているため資金繰りについては今後注視する必要がある。

5. 業況について

好転	6
やや好転	26
不変	27
やや悪化	19
悪化	7
合計	85

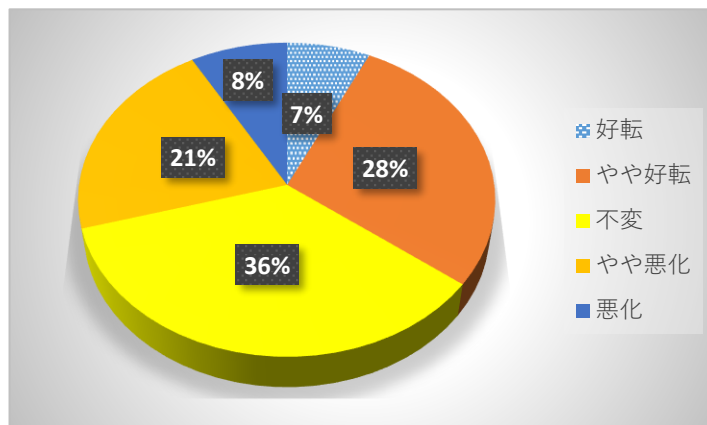


【コメント】

- 好転・やや好転が約63%で売上の増加、採算の好転が要因と考えられる。

6. 今後6ヶ月間の業況について

好転	6
やや好転	24
不変	30
やや悪化	18
悪化	7
合計	85



【コメント】

- 今後6ヶ月と昨年同時期を比較し、悪化・やや悪化と回答した事業所は25件で全体の30%を下回っている。
- 本年10月には消費税増税もあるが、好転・やや好転・不変と考えている事業所が60件であった。

■ 回答事業所からのコメント

- ・ 平成30年度持続化補助金交付が決定し、新たな機材導入し効率的かつお客様の評判を呼ぶと思えるため。
- ・ 新規事業および既存事業が高稼働している。大きく悪化する要因もない。
- ・ 北海道の原料を使ってオリジナル商品の開発や北海道物産展等の関東圏、関西圏での人気上昇によるものと思います。催事開催の運営企業などの営業力です。
- ・ 弊組合の受注、生産のピークが10月から3月に集中している（90%弱）ことから、第1四半期での動きが鈍く動向の変化を見極める状況ではありません（不変）。今後6ヶ月間の業況については、ボールパーク開業に向けた動きが活発になることが予想されますので期待を込めて、好転するものと考えています。
- ・ 昨シーズンの少雪により整備売上がやや減少。
- ・ 今後10月に施行される消費税増税により消費者の購買意欲の低下や社会問題となっている少子高齢化、人口減少に伴う経済力の鈍化が業績に影響を及ぼすと予想しています。
- ・ 近くの競合店が出てから、そろそろ2年になり売上は悪いながらも下げ止まりになってきており、少しずつではありますが回復感が出てきております。ただ10月からの消費税値上げを心配しております。
- ・ 4～5月期は大口固定のお客様の注文が例年より多かったのですが、6月期からの中・小口のお客様からの注文が例年に比べ極端に少なく、先行きが不透明です。
- ・ 取引先（顧客）の営業（販売、生産）不振、経費節減などの影響を受けるため。発注金額のダウン。
- ・ 太陽光発電建設の最終段階の需要大。
- ・ 元請けの現場着工数が少なかったため4月～6月は売上低下気味でした。7月からは大分着工数が増えてきたので、売上は回復傾向が見込めると思います。
- ・ 去年震災の影響で墓じまい進行。建て替えと墓への関心を持っているお客様がいる。
- ・ 米中間貿易戦争の影響は少なくともあります。中国の政策により日本からの輸出が減少したことが最大の原因と考えます。

- ・ 外注費は上がる傾向ですが、社内単価は年度内は据置。→利益減。人件費が働き方改革でアップ。
- ・ 鉄材等の仕入が上昇しており、採算が多少悪化。販売価格へ転嫁しているが、今後は伸びが鈍化すると考えている。
- ・ 道外顧客の設備投資計画が19年度減少。20年度は平年並みの影響を受け当社業績も19年度悪化。20年度は回復の見込み。
- ・ 地元北広島市の発注が遅れている。ボールパークの関係で予定されていた工事が遅れているか？中止になっている部分もある。
- ・ 専門業以外の仕事の獲得で売上増加するも粗利低く、採算面不変。
- ・ 業界としてはボールパーク効果が先行し、土地の値段が上がっており購入意欲が各方面からあり良好であると感じます。
- ・ オリンピックや災害の特需が良くも悪くも影響していると思います。
- ・ 顧客増により売上増・収入増になります。資金繰りとか仕入単価とか当てはまらない部分もありますが、先ずは送ります。
- ・ 下半期の売上が見込みのため。
- ・ 顧客の新規開拓、新営業所の稼働による見込み。
- ・ 人員不足および子供不足。
- ・ 新商品の売れ行きが良いため。
- ・ 本業が事業計画どおりに推移していることと、ここ1年で借入金が大幅に減少したため。
- ・ 建設業なので3ヶ月だけの判断は難しいが、材料が値上がりしそれに伴い売上高も引きずられているかと。
- ・ 外注労務単価（交通誘導員等）および資材単価の上昇。自社の労働力（通年・季節雇用）不足による受注量の減少。下請・協力業者の確保が困難。
- ・ 年度末（3月）に受注物件等が完了し、新年度（4月）以降の物件発注が6月中頃から始まり、これから工事物も動き出すという状況です。決算が3月のため5月末に消費税の納付もあり6月は資金繰りが大変でした。7月になり受注、売上も増え8月以降は好転すると思われます。私どもの業態は毎年のことですので驚くことではありませんが。
- ・ 仕入単価、人件費が高騰するも値上げが付いていかない。業界全体が良くならないので依然として厳しい状況。
- ・ 仕入に関しては、肉や乳製品などの値上がり、酒類の値上がりがありますがメニュー価格等の見直し等で対応しています。全体的には年間通して、また月の売上に変動がなくほぼ平均的な売上となっている。ランチ利用に関しては好転だが、ディナー利用が思ったよりも悪化気味。駅東側への流れが欲しいところです。時間帯としては、16：00～20：00。
- ・ 人件費増加。営業員の増加による増収までに時間を要する。あと1年程度は我慢が必要。
- ・ 建設業の市場においては上向きとなっており、当社においても同じように市場の上向きに準じて業績も上がっております。
- ・ 人口が減少していく中、競合店舗の増加により客数が減少しているのが売上減の要因となっている。
- ・ 来客の4割強が市外のお客様で、その中にはインターネットでの来客が約半数を占めています。
- ・ 自社特許製品が期限切れを向かえたが、道外への出荷が多く、この先1年は好転側になりそうだ。
- ・ テナントの減少。
- ・ 建設業がまあまあ好調なため、鉄骨需要が良好ですがボルトの手配が厳しく、来年度に延期などもあり市場としてはまずまずです。
- ・ 北海道内の観光バス事業は、燃料代や人件費が上昇している中で仕事の奪い合いとなっており、単価も下落傾向にあるためです。
- ・ 公共工事の受注が増えたこと。
- ・ 人手不足の状態が慢性化しており、仕事があっても断らざるを得ない状況。
- ・ 経営者本人の高齢化。客の高齢化で単価が減少。営業時間を短縮した。現下の経済

状況の停滞。

- 個人旅行や小グループ旅行の拡大により、貸切バス需要の減少が見られるとともに、燃料価格が上昇傾向にある
- 企業様からの依頼が減少してきました。ガソリン代の値上がり（約50%）にかかわらず、運送代金を上げることができないのが現状です。今後も同様と考えられ上向きは厳しいです。
- 人員不足の中、働き方改革が本格化し、給料の増額に対して売上が追いついていないと考えられる。
- 職人不足により仕事を自分でこなすことになった。消費税引き上げによる駆け込み需要があったので。
- 売上の増加と管理費の削減が採算の好転に反映された。

